市町村職員等在宅医療・介護連携基礎研修（盛岡会場）	資料14
平成28年11月29日	
長寿社会課　地域包括ケア推進担当	

在宅医療の実際

市町村職員等在宅医療・介護連携基礎研修　　平成28年11月29日

４．看取り

訪問看護ステーションもりのみやこ　森明子

自宅における終末期対応

➡ がん末期の場合

●痛みが無いように麻薬等を適切に使用する。

●どこの臓器に原発していてどこに転移しているかを把握。

●基本的にはがんの告知をされていることが望ましい。

●最期の時（死）はどこで迎えたいと思っているか。

●意思決定の場面においては、本人と家族の傾聴に努め
「思い」を表現できる信頼関係を築いておくこと。

●気持ちが揺れ動き、当初の気持ちと違っても良いと受け止める。

がんの終末期のケア

- 本人の苦痛を最小限に抑える。
- 身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛
- スピリチュアルペイン
- 人生の終末期に近づいた人にとっては自らを許すこと、家族との和解、自身の生きた価値の確認など・・何の為に生きるのか、今までの自分の行いはどうだったのか、本当に価値のあるものは何か、死んだ後はどうなるのか・・

●肉体は亡くなっても、生きた証は残される家族の記憶の中にとどまり続ける。

がんの終末期のケア

その人がその人らしい「生」を全うできるように支援をすること

●緩和ケアの三大要素

☺ 痛みが無いこと
☺ 傾聴・共感
☺ 家族ケア
☺ ユーモア
（がん・・にもかかわらず笑える時間がある）

緩和ケア病棟について

- 盛岡赤十字病院　緩和ケア病棟
- 孝仁病院　緩和ケア病棟
- 県立中部病院　緩和ケア病棟
- 盛岡友愛病院　緩和ケア病棟
- 今後、岩手医大　緩和ケア病棟

（緩和ケア外来・緩和ケアチームは既にあり）

なぜ「家」がいいのか？

- 束縛のない自由な生活を送れるから
- 家には最後まで自分の役割があるから
- 自分の仕事を最後まで全うできるから
- いつもそばに家族が居るから
- 家族が、病院と家との二重生活をしなくてもいいから
- 命の継承がなされるから
- 住み慣れた家が最も居心地のいい場所だから

退院調整の重要性

- 入院時から　生活の場に帰す医療提供を考えることが重要。
- がんの治療を受けるのか受けないのか？
- 化学療法の副作用を十分に説明し本人と家族の意思を確認。
- 急性期の治療が終えた後、転院して死を迎えるのか、
- 自宅に帰るのかの意思を確認することが重要。
- 自宅に帰る為には何と何が必要なのかを考えること。
- ●介護保険で利用できることは何か？
- ●医療保険で利用できることや負担限度額負担の申請はどうか？

告知をしないでいると・・

- 病状の進行と共に本人を**孤立させる**ことがある。
- 周囲（家族）の接し方にも無理が生じる。
- 家族は病状に関する**話題を避けるようになる。**
- 本音で会話が出来なくなり**死の辛さを共有できなくなる。**
- **自分の輝いていた時代の話や感謝の言葉を言えなくなる。**

➡結果、

会話や笑顔が少なくなることが多い。

ケアの時期が移行するとき
看取りの準備のための説明を行う

➡ 本人の意識が低下していく時期から
➡ ケアの対象は、家族へと重きが移行
看取りの身体的変化を「おしらせ」する。
と同時に不安な症状があれば、24時間いつでも
訪問看護ステーションに連絡・訪問が可能なことを伝える。
●パンフレットを渡して説明を行う。
往診医が行うこともある、訪問看護師が行うこと
もある。

お亡くなりになった後・・
遺族ケアについて

➡ 大切な家族との死別の悲嘆（グリーフ）から立ち直って
いく為に最も重要なことは？
●本人が安らかに亡くなったという事実を伝える。
●看取りをした家族が出来るだけのお世話をやり遂げたとの
思いを持てるように話す。
（可能な限りのお世話をして上手に看取りができた事を認めて
「よくやった」と褒めてねぎらうこと）
●ちゃんと泣ける時間を持てるようにささえること。

＜事例＞入院中に医師や看護師に職業や家族の状況等の本心を話さず退院を強く望んだKさん

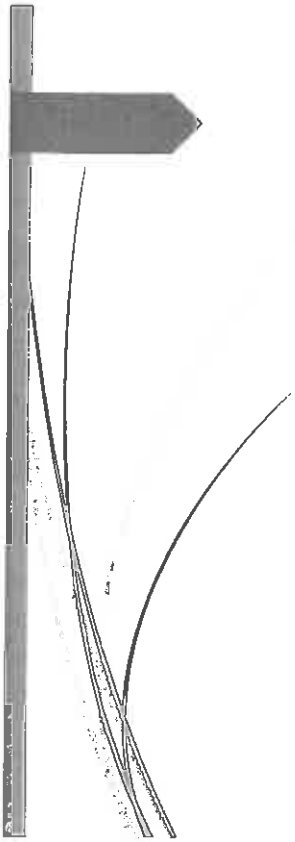
- ６０代　男性　独身
- 前立腺がん末期　肝臓転移　肺転移（腹水著明・胸水あり）
- 黄疸　呼吸困難あり（酸素３ℓ）
- 緩和ケアチーム看護師より退院相談あり➡当日面接
- 本人の訴え➡「看護師に嫌われている。自分も今すぐにでも家に帰りたい。家族は居ないが教え子が手伝ってくれる」
- 教え子の方に連絡➡東京に二人の妹さんが居ると判る。
- 緩和ケア看護師から妹さんに連絡して自宅に来て頂く。

Kさんの自宅

- 自宅➡　玄関にはたくさんの段ボールが積み重ねてあり
  - ➡　廊下、台所、浴室、居室、寝室全てに物があふれベッドを置くスペースがない。

➡しかし溢れていた物はゴミでは無く、水晶や数珠等が仏壇に多数ありKさんにとって宝物に見えた。きっと症状が辛くて動くことが出来ずに、物を片づけられずに藁にもすがる思いで生活をしていたのだろう・・

教え子さんが発見した時には意識がなく救急車を呼んで入院となった。



Kさん、家に帰る！

- ➡介護保険は申請したばかりであったが重度・・
- ➡特殊寝台（３モーター）床擦れがありエアマット
- ➡車椅子（立位・歩行不可）
- ➡訪問診療　退院当日
- ➡訪問看護　退院当日から１日２～３回
- ●本人の希望を叶えて複数の看護師でシャワー浴実施
- ●在宅酸素・排泄介助・体位交換・褥瘡処置・内服介助
  家族ケア（妹さんに自宅で看取りの準備を説明）